

米軍再編に係る千歳基地への訓練移転に関する 米軍及び北海道防衛局によるブリーフィングの質疑応答

【苫小牧市から米軍への要望】

- ① 訓練の安全管理や戦闘機の整備点検など、市民の安全・安心の確保に万全を期していただきたい。

〈回答〉

- ・安全に訓練を実施するため、日頃より訓練を実施するあらゆる場所において、しっかりと飛行運用の安全を図って、業務、任務にあたっている。
- ・空軍においてはかねてより、「急がば回れ」との格言が訓練にもあり、丁寧に物事にあたっていくことで、結果的に滞りなく安全に任務を遂行できることを念頭において、対応していきたいと考えている。

【苫小牧市から北海道防衛局への要望】

- ① 先日開催した市議会において、ブリーフィングの参加人数制限をなくしてほしいという意見がございましたので、今後ご検討いただきたい。

〈回答〉

- ・ブリーフィングについては、第2航空団及び米側とも事前に調整の上、企画しているところだが、訓練準備に支障のない範囲において会場や時間等を考慮し、参加人数を1自治体5名までとさせていただいた。
- ・ご要望については、今後の参考とさせていただく。

【日本共産党市議団から米軍への質問】

- ① ブリーフィングについて

「会場の都合」で1自治体5名までと参加人数を制限していますが、ブリーフィング会場は十分な広さがあり、制限する理由がわかりません。なぜでしょうか。次回以降は、以前のように希望者が参加できるようお願いします。

〈回答〉

※【苫小牧市から北海道防衛局への要望①】の回答と同様

- ② 米軍人の綱紀粛正について

23年の日米訓練に参加の米軍人が、千歳市で民間車両に無断侵入する事件が発生しています。この事件を受け、午前1時から午前5時までの飲食店の入店を禁止していると苫小牧市より伺いましたが、どのように米軍人全員に徹底するのかお聞きします。その他の事件・事故が発生しないよう、綱紀粛正の徹底をお願いします。

〈回答〉

- ・基地内では、出張先で品行方正であるよう事前のトレーニングを行っているほか、特定時間帯、午前1時から午前5時までの基地外での飲酒を禁じる「リバティ制度」の遵守について改めて指導を徹底している。

③ 沖縄の負担軽減について

苦小牧市は、「沖縄の負担軽減」を目的に訓練移転を容認しています。しかし、沖縄では、外来機の飛来が増えていることもあり、負担軽減が全く実感できない状況が続いています。そのため、訓練移転とあわせ外来機の飛来規制も必要です。米軍として検討ください。さらに、辺野古での新基地建設は、沖縄の負担を増幅させます。アメリカ本国への移転を強く求めます。回答をお願いします。

〈回答〉

※日米共通事項のため、日本側で回答。

- ・訓練移転については、嘉手納、岩国、三沢にある米軍の飛行場の航空機が一定期間、自衛隊の施設、そして現在はそれにグアムとアラスカが加わっているが、移転することにより、訓練活動の影響は軽減されるものと考えている。今後とも着実に積み重ね、米軍飛行場における訓練活動の影響の軽減に努めていきたい。
- ・普天間飛行場の代替施設の建設については、普天間基地は住宅が密集しており、この固定化を避けるために、日米両政府の間でこの辺野古施設を唯一の解決策であると考え方で合意をされており、これまでもたびたび米側と確認してきているところである。防衛省としても、引き続き普天間飛行場の一日も早い全面返還を実現し、沖縄基地の負担軽減を図るためこれに取り組む考えである。

【日本共産党市議団から北海道防衛局への質問】

① 平和的解決について

「訓練は侵略を思い留まらせる抑止力になる」と苦小牧市から説明を受けました。私たちは、訓練よりも平和的な外交を進めることが、唯一の解決だと考えます。効果のある外交に努めることを強く求めます。回答をお願いします。

② 訓練の増加、拡大について

7月に日独西および日独の訓練が行われ、そして今回は千歳への訓練移転にあわせ日米共同統合演習（実動演習）が同時に展開されます。さらに、「自由で開かれたインド太平洋」構想により、地球規模の訓練に発展しています。市民生活にも大きな影響を及ぼす訓練の拡大は、市民不安を増幅させます。安全保障での危機感を煽り、訓練を拡大することに反対です。回答をお願いします。

③ 訓練移転に参加する第2航空団も、実動演習に加わりますが、訓練の増加・拡大により「賭命義務」を担う自衛官の負担拡大が心配です。アメリカの求めに応じた訓練拡大の見直しを求めます。回答をお願いします。

〈回答〉

※①～③を一括で回答

- ・今回の訓練移転は米軍再編の日米ロードマップに基づき、あくまでも二国間の相互運用性の向上と在日米軍飛行場の周辺地域における訓練活動の周辺住民への影響を軽減するために、平成18年度から実施されているものである。
- ・また、今回訓練移転と同時に日米統合演習を実施するが、本日米統合演習は日米の共同の対処能力や部隊の戦術技術の技量の向上を図ることを目的として行われているものであり、併せて同時に行うことでより効率的かつ効果的な訓練を行うために計画をしているところである。
- ・自衛隊にとっても常日頃から、練度や技量の維持向上のために必要な訓練を行うことというのは重要であり、共同訓練により効率的、効果的に行えることから、自衛隊の負担の拡大となることはないと考えている。